

幸せを探しているあなたに

正しい考え

祈りは霊的な科学です

このように考えてみてはどうでしょうか 最近、仏教の曹溪(チョゲ)宗では「2010 南アフリカ共和国ワールドカップ」開幕を控えて「国家代表サッカー選手の宗教行為改善要請」という題の公文書をサッカー協会と大韓体育会に送りました。選手個人の宗教生活も尊重されなければならないが、視聴する人の宗教も尊重されなければならないとして、選手たちに対する事前教育を通して、祈りセレモニーなどの宗教的行為が現れないようにしてくれと要請しました。曹溪(チョゲ)宗関係者は「国家代表は公認だから信仰表現にも注意しなければならない」と言って「サッカー協会に予防策を用意してくれという趣旨」だと説明しました。こう考えてみればどうでしょうか。その選手たちは、国家を代表して走る時は、命をかけて走ります。その選手たちが、個人の宗教を持っているなら、今回のバンクーバーオリンピックのキム・ヨナ選手のように十字をきることに役に立ったらそのようにすればよいのです。命をかけて国家を代表して走る選手が、合掌をして役に立ったらそのようにして、祈りをして役に立ったらそのようにするのが、民主主義ではないでしょうか。もちろん、競技の途中にミサをささげなければならない、礼拝をささげなければならないとなれば、だめでしょう。正しい考えが真の信仰生活と真の祈りの答えのはじまりです。



祈りは霊的な科学 すべての宗教は祈禱文を持っていたり、祈りをしたりします。あるときは、動物にお辞儀をしながら祈っても答えがきます。石や木

にお辞儀をして、おがんでも答えがきます。手で作った偶像、神をまつたうつわにお辞儀をして祈るのに答えがきます。特殊な宗教団体の指導者にも力があらわれます。

いったいその理由は何でしょうか。聖書は、神様でない他の対象に祈る時も答えられると言っています。ところが、それがまさに暗やみの働きで、悪霊の働きであることを明らかにしています。人々は問題だけ解決されれば、それでよいという考えで祈ります。良いことでも、悪いことでも答えを受けるのですが、結局は、失敗するようになります。しかし、神様の子どもが祈れば、必ず3つの方法で答えられます。最初に、祈ったとおりに、ただちに答えられます。二つ目、損になったり不必要なことは答えられません。三つ目、私たちが祈ったことよりもっと大きくて良いことで答えられます。神様がくださる答えを受けようとするなら、どのようにしなければならないのでしょうか。まず、神様の子どもにならなければなりません。そして、イエス様の御名で祈ってください。心の奥深くで犯した罪まで悔い改めてください。神様がかならず、私の祈りに答えられるという信仰を持って、最後まで祈ってください。そうすれば、神様が心と思いに知恵をくださって、答えを悟らせてくださいます。祈る時は私の思いどおりではなく、神様の完全なみこころどおりに祈らなければなりません。そして、神様の隠れた計画が何か分かるように、うらみを晴らす心ではなく、ゆるす心で祈ってください。祈りは霊的な科学です。私たちが祈るとき、かならず聖霊が働かれます。聖霊が働けば、悪霊の勢力は縛られるようになります。聖霊が働けば、神様の御使いが動員されて、主の働きをするようになります。この時から、周囲の環境はだんだんと変わりはじめるようになります。神様が続いて答えの人を送ってください。イエス・キリストの御名は、人間が努力してもできないことを解決する、すべての問題解決の鍵です。

重職者の 自尊心と聖霊の導き

愛国者の自尊心 1909年10月26日午前9時満州ハルビン駅で伊藤博文を狙撃して死刑宣告を受けたアン・ジュングン義士に彼のお母さんはこのような手紙を送りました。「正しいことをして受けた刑であるから、卑怯にいのちごいをせずに、堂々と死ぬのが母に対する親孝行だ。生きようと苦闘する印象を残さずに、毅然と命を捨てなさい。お前の死はお前ひとりのものではない」1910年3月26日アン・ジュングン義士はこのような遺言を残しました。「私は天国に行っても、当然、韓国の独立のために努めるだろう。大韓独立の声が天国に聞こえてきたら、私は当然、踊りながら万歳を叫ぶだろう」

ひとりの愛国者の自尊心が、一つの国を生かしました。それなら、私たちの重職者の自尊心はどのようなものなのでしょうか。

重職者の自尊心 今、あちこちに重職者をたくさん立てています。私たちが大きい働きもすべきですが、それより重要なのは聖霊の導きを受けることです。私たちの重職者の中で失敗する方を見れば、その方たちが悪くて失敗するのではなくて、聖霊の導きを受けずに失敗するのです。私たちは聖霊の人だから、聖霊の導きを受けなければなりません。重職者はだれがなんと言っても、福音運動をするために呼ばれた神様の子どもで、油を注がれたしもべです。すでに福音を受けた人々だから、本当に一日に1、2回時間を決めておいて、祈りながら考えるだけでも良いのです。これが定刻祈りです。そして、私たちには多くのことが起きるのですが、そのような時、少しだけ祈っても聖霊の導きを受けるようになります。これを常時祈りと言います。この2つのことがなる時、礼拝をささげれば、みことばが通じるようになり、答えと祝福を受けるようになります。信仰生活は、聖霊の導きだけ受ければ、栄える祝福を味わうようになります。初代教会の重職者は、毎日のように使徒1:1-14節のみことばを考えました。「ただイエス!」の契約を握ったとき、暗やみが離れます。行く所ごとに「神の国」が臨み、聖霊の力を受けて証人として立つようになりました。この祝福をすべての現場に伝えるのが地教会です。この時から、重職者は五つ(祈りの課題、伝道の方向、メッセージ、裏面契約、中心/結論)が通じるようになります。今から、神様の子どもであり、油を注がれた重職者としての自尊心、自負心、自分を大切にする思いを持って、歩みごとに神の国が臨むように聖霊の導きを受けながら、すべての現場を生かす主役になってください。

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どものお五つの確信

- 1 **救いの確信**: イエス・キリストを信じて受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15-16、Iヨハネ 5:10-13)
- 2 **祈り答えの確信**: 神様の子どもはイエス・キリストのお名前前で何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 **導きの確信**: 神様は聖霊で私の中におられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26-27、箴言 3:5-6)
- 4 **赦しの確信**: 私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さい(ヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 **勝利の確信**: 救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31-37、Iヨハネ 5:4)

神様の子どものお毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

それで 感謝します

いつからか、お医者さんのひとりと安らかな対話をするようになりました。キリスト教にいやな思いを持っていたその方は、思いがけない質問を受けて、うろたえた顔になりました。「先生が、あえてイエスを信じなくてもよい理由があります」それが何かと尋ねました。「先生が自分で3つの問題だけ解決できるならば、あえてイエス様を信じないでもかまいません。先生は今まで生きて来られて、深い孤独とさびしさの中で、人生の意味と虚無にたいして悩んでみたことはありませんか。もしかして先生は自分だけが分かる罪のために、他の人は知らない罪悪感と因果応報の前に悩んだことはなかったですか。今まで生きてきながら、自分と家庭と家系、医師という仕事をしながら理解できないと感じたことはなかったですか。言葉にはできないおかしな苦しみはなかったですか」沈黙していたその人から、思いがけない返事が流れ出しました。「今でもそのように生きているのですよ」

聖書は人間が悟ればできることがあって、悟ってもできないことがあると語っています。私たちは努力をして、正しく生きなければなりません。ところで、それではできないことがあります。それで、神様は人間が解決できない問題を解決するために「イエス・キリスト」を送ると約束されました。人を十人、二十人殺す人が、本当に本人が願って問題を起こしているのでしょうか。いったい何に捕らわれているのでしょうか。神様はキリストを送って、すべての罪と呪いを滅ぼされると約束して下さり、それらを握っているサタンの権威を滅ぼすと約束して下さいました。神様に会う道を開いて下さいました。私たちにはできないから、信じなさいと言われるのです。

あるひとりの青年の告白を読むようになりました。それを通して、福音を私たちの人生で感謝する理由があることを、もう一度確認するようになりました。「神様が私たちにくださった福音を感謝する理由は、学もない私の恨みを晴らしてくれるためではなく、世の中のすべての知識をそろえた学者にも臨まない神様の恵みが私に臨んだためです。貧しい私を豊かにしてくれるからではなく、全世界の経済を動かす富豪であっても得られない真の経済の主人である神様の資産を受け継ぐ相続者の身分を得たためです。いくら努力しても得られない名誉と権力が世界福音化の主役という名のもとに与えられるという漠然とした希望のためでなく、万王の王である神様の子どもである身分と、世の中が太刀打ちできない権威がすでに与えられたためです。神様が私たちに与えられた福音を感謝する理由は、私が健康であるからではなく、あらゆる病気に苦しめられて苦しみの中にいるとしても、私のたましいの深いところに真の安らぎと平安をすでに持っているためです。どんなに強くて大胆な者であっても勝てない人間の問題を解決してもらい、神様が与えられる大胆さと力を供給してもらえる神様の水準になったためです。今、私が持っている問題を解決するためでなく、すでにすべての問題は終わりにして下さったので、問題に対する自由さが私にあるためです。福音であるイエス・キリスト、その方のために私は過去も感謝して、今日も感謝しながら、未来も感謝するでしょう」

「主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません」

(詩編 23:1)

集中の 実と毒

幼い時からお母さんからいつも聞いた小言の中の一番は勉強しなさいということだ。勉強しようと机の前に座っても、勉強が楽しいだけではなかったので、いつも別の考えに捕らわれていて、見てみたら勉強はしても勉強ではなくて、そのかわりに奉仕活動に縛られていた。ある瞬間、年を重ねて勉強をしなければならない理由が発見できたら、これ以上、勉強しなさいという小言を聞かなくても勉強できるようになる場所に達するようになった。

勉強の基本は集中にある。集中できる人は、自分の目標に従って成就するようになるが、集中できな



イラスト_ユン・スルギ

い人は、いくら目標を低くおいても、成就することができないのだ。集中力は、仕事に対する関心で左右される。集中力がある人は、勉強や仕事で頭角を現わすが、集中力が落ちれば、そのまま現実で淘汰されることがよく起きる。

しかし、集中力は、人間ならばだれでも持っていることであるが、ただし、その方向性が問題になる。勉強に没頭できる人は、成績優秀者と認められるが、勉強よりは運動に興味がある人は、相対的に勉強に没頭しにくいのだ。結局、人々が自分の偏った選択によって、勉強とか運動をしてみるから、社会の多様な要求を制限するようになって、その反対現象でとんでもない集中に没頭して、その結果が中毒として現れるのだ。韓国コンテンツ振興院によれば、小、中、高生の7%である50万人余りがゲーム中毒者になって、社会的問題として台頭していて、その治療に対して国家の介入を要求する声が大きくなってい

る。中毒症の傾向もただゲームだけのものでもなくて、ショッピング、お酒、ギャンブルなど、多様な中毒症の傾向がある。

結局、集中しなければならない強迫観念によって、集中を分散させる新しい形態として自分の好みによっておもしろいとはじめたことに没頭して集中することなので、中毒症の傾向を起こすのだ。それで、治療の方法よりは使用者を助ける法案として、ゲーム時間を調節するとか、シャットダウンするとか、疲労度を高めるなどの多様な代案が提示されている。

しかし、人間は本性に永遠を慕い求める心がだれにでもあって、それを満たそうとする意図がある。その必要が初めには勉強ではじまったが、結果はインターネット中毒というあきれる結果をもたらすようになったのだ。パスカルは、人間の心の中には、空虚すなわち空いた空間があると言った。それが宗教の席だと言っても、事実上は神様だけで満たさなければならない祝福の席だ。ところで、その席を満たさなければならない福音メッセージを多くの人が聞くことができなかったのだから、まず簡単に見えるなんでもあってもよいもので満たして入れてみたら、結局、問題をいっぱい満たしたことになるのだ。いろいろな中毒症傾向の解決のため、多くの努力が提示されているが、結局、人間の本性によって整理されなければならない集中の問題だ。真の集中は、人間が神様のかたちとして造られたという事実を祝福で受け入れることに使われなければならない。その時にはじめて、私たちが生きなければならない人生の規範が準備されるのだ。

福音を聞くこともできない人々は、自然に縛られている苦しみの場所から、その人々も出てきたいのだ。しかし、ただ自分を道だとおっしゃられたキリストを通して救われることだけが、縛られている彼らを自由にすることだ。人間の集中力が福音に集中するとき、その人、個人も生かされて、周辺も変えられていく。そして、それこそが集中の毒である中毒を癒す神様の唯一の方法だ。おそれずに、平安な心で歴史の中で検証された福音の中に来てごらん下さい! 真の自由を味わうようになるでしょう!

文_チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)